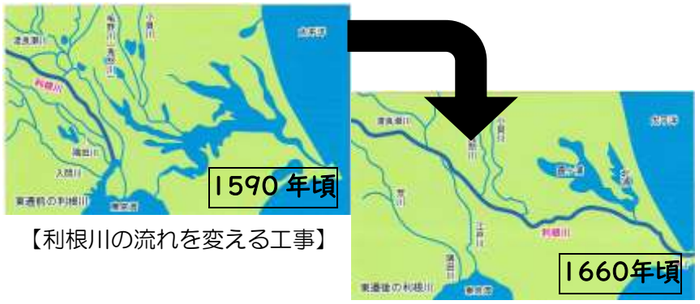
江戸幕府と政治の安定　　６年　　組（　　）

利根川を曲げる

江戸に幕府を開いた徳川家康。その家康が、江戸に入ったのは1590年。当時は湿地が多く、東京の中心まで海だったのです。

家康は、大名に命じて、利根川の流れを変える工事を行わせました。東京湾に流れ込んでいた川の水を東側へと流すようにしたのです。かなりの年月がかかりましたが、これにより、湿地だった江戸の地は住みやすく、水害に強くなりました。また、北から攻めてくる大名に対する備えもできるようになりました。



【利根川の流れを変える工事】

土地を埋め立てて、運河をつくる

徳川家康は、大名たちに命じて埋め立てを行い、土地を増やし、城下町を大きくしました。城の周りに徳川家の家臣を住まわせ、その後、商人を集める地域（町人地）もつくりました。

【江戸の埋め立ての様子】

家康は、江戸に運河をつくりました。運河とは、船が通れる水路のことです。 このころ、物を運ぶ手段の中心は船でした。水路にそって大きなまちがつくられました。そのひとつが日本橋です。日本橋には、全国からさまざまなものが集まるようになりました。また、水路には、戦いのときに敵が攻めてくるのを防ぐためのお濠としての役割もありました。

まちづくりは、家康の後も続けられ、18 世紀には 100 万をこえる人が住む、当時、世界で最も大きいまちになったと言われています。現在の東京は、1300万人を越える世界有数の大都市となっています。

【運河を使って品物を運ぶ商人】

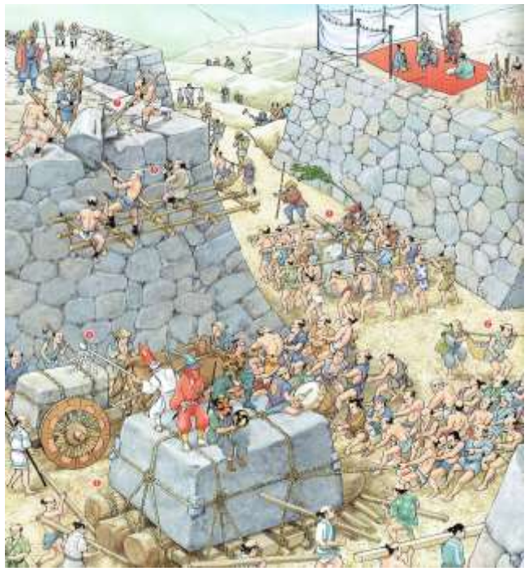
【江戸時代からにぎわう日本橋】

江戸城と石垣

江戸城を支え、お濠を固めている石垣は、伊豆半島や瀬戸内海で掘り出された石を船で江戸まで運んだものを使って築かれました。石の重さは、大きい物でおよそ35トンもありました。

江戸では石材が取れなかったので、徳川家康は配下になった全国の大名に命令し、石材を運送させました。このように、幕府が大名に命じて土木工事などの仕事を行わせることを「天下普請」といいます。天下普請の命令が下ると、大名達は費用などを自分たちで負担して仕事にあたりました。

【石垣に使われた石が運ばれたルート】


【石を運び、積み上げる様子（想像絵）】

石を運んだり、石を積み上げたりする仕事を、黒田長政や加藤清正、福島正則などの豊臣家に仕えていた武将に命じて、江戸城を作り上げました。江戸城の石垣には、「＃」「卍」「△」など、様々な記号やマークが刻まれています。これは「刻印」と呼ばれ、どの大名が担当した石かを示すもので、今も実際に残っています。

【江戸城があった現在の場所の様子（東京都千代田区）と、石に刻まれた「＃」の印】

出典：NHK for school、『知る、見る、歩く！江戸城』、国立歴史民族博物館ＨＰ、一般財団法人国民公園協会